

日時 : 令和4年3月10日(木) 9:30-11:30

場所 : 二宮町役場第1会議室/オンライン

参加者 :

所属	氏名
二宮小学校	片岡宇一郎 学校運営協議会会長代理 中西美保 学校長
一色小学校	橋本由恵 学校運営協議会会長、地域学校協働活動推進員 古正栄司 学校長(オンライン)
山西小学校	宮戸健 学校運営協議会会長(オンライン) 山中美由紀 地域学校協働活動推進員(オンライン) 小室喜雄 教頭(オンライン)
二宮中学校	小宮昇 学校運営協議会会長 松本雅志 学校長
二宮西中学校	泉直英 学校運営協議会会長、地域学校協働活動推進員 和田智司 学校長(オンライン)
町	森教育長、黒石教育部長 ・教育総務課 下條課長、田中課長代理、安藤指導班長、丹羽主幹 ・生涯学習課 竹本課長代理、加藤生涯学習・スポーツ班班長
欠席者	伊達良雄 二宮小学校 地域学校協働活動推進員

概要

1	開会
2	教育長挨拶
3	自己紹介
4	コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について
町	コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について(文科省作成資料より) ・コミュニティ・スクールの導入状況 (令和3年度) 全国は33.3%設置。神奈川県は39.8%だが、類似の仕組みを含めると67.7%。 ・地域学校協働本部の設置状況 全国は54.7% 神奈川県は46.9% ・学校運営協議会と地域学校協働本部の役割の違いについて 学校運営協議会…学校運営を高めるための仕組み(学校教育) 地域学校協働本部…地域と学校による協働活動を実践するための仕組み(社会教育) ・学校運営協議会(教育部局)と地域学校協働本部(社会教育部局) ・学校運営協議会のチェックポイントについて ・地域学校協働活動推進員の役割が大切になってくる。
町	・地域学校協働活動推進員と学校運営協議会の協力のおかげで今年度の放課後子ども教室の活動を無事に終えることができた

	・令和４年度は、放課後子ども教室の実施回数を増やしたい。現在、学校と調整中。１学期からできるとよい。
５ 令和３年度の各学校の取り組みについて	
① 二宮小学校	
二宮小学校	・令和３年度は４つの部会で活動を実施。（校外安全・学びふれあい・環境整備・その他） ・校外安全部会では、PTA 校外委員と先生方とボランティアと協力して活動に取り組むことができた。今後は、いかに PTA 校外委員さんや先生方の悩みを受け止め、フォローしていけるかが課題。 ・学びふれあい部会では、学習支援と放課後の居場所づくりを主な活動内容としている。今年度は、放課後の居場所づくりがメインだった。今後は地域の理解を得ながら活動をさらに充実させたい。一方で、学習支援については、地域に人材が居ることは把握しているが、学校の要望を十分に汲み取れなかったため、学校と地域をコーディネートさせることができなかった。 ・環境整備部会では、樹木剪定、花壇の整備、大掃除を実施した。R4 はエアコンのクリーニングもできたらと考えている。（※町予算対応になる見込み） ・その他の部会では、保護者からの相談に対応していた。 ・150 周年に向けて、R4 に実行委員会を立ち上げる予定。 ・R4 も４部会が学校と連携しながら、内容を充実させていきたい。
二宮小学校	コロナ禍で学校運営協議会の実施回数は予定少なくなったが、部会ごとの活動は定期的に実施できた。
② 一色小学校	
一色小学校	・令和３年度第３回と第４回の学校運営協議会では、学校のグランドデザインをよりよいものにするために熟議を重ねた。 ・令和３年度の主だった活動は次の通り。 ・外部講師を招いて、１年生と４年生の学習実施。外部との調整は地域学校協働活動推進委員が担当したことで、学校負担はほぼなかった。学級担任との打ち合わせも隙間時間を活用して実施。その後、４年生がこの活動を総合的な学習の時間で発展させていった。４年生の子どもたちが「友情の山」の活用方法について数多くのアイデアを提案し、企画書を作成。「おやじの会」が子どもたちのアイデアを実現。「友情の山」に滑り台が誕生。活動の様子は、CS 関係者の HP 等にも紹介。活動内容の発信を通して地域の輪をさらに広げていくことを期待。 ・３年生の豆腐づくり。これまでは町内の団体に依頼してきたが、コロナの影響もあり、学校地域協働活動推進員が活動を支えることにした。上手にできなくても、教育活動は、成功することだけが大事ではないという校長先生の考えが後押しとなり、活動を推進することができた。 ・畑の管理を地域に依頼。従来は、学校の先生が畑を管理していたが、負担の大きさが課題だった。学校が学年別の栽培カレンダーを作成して、地域に管理を依頼。あくまでも子どもたちの教育活動が主体である。地域が子どもたちの教育活動を支える役割を担う。 ・卒業式の会場装飾を地域の福祉団体が作成。 ・朝ごはんを食べることの大切さを伝えるために、町内の団体（二宮こども食堂）とタ

	イアアップして朝ごはんプロジェクト実施（予定）。他地域での実践を参考にしながら、ぜひ継続していきたい。 ・今後も他団体と協力しながら活動の幅を広げていきたい。
③ 山西小学校	
山西小学校	・見守り部会、学校支援部会、環境部会の3部会で活動。コロナの影響で制約はあったが、着実にあゆみを進めることができた。 ・見守り部会では、PTA 地区委員と連携して通学路の安全点検を実施予定だった。コロナの影響で実施できなかったが、PTA との連携は進んだ。R4 年度には実施したい。 ・学習支援部会では、地域の方と教員をつなぐ役割を担い、児童の学習を支援した。 環境美化部会では、図書ボランティア等を実施。卒業式後の花の手入れについては、PTA が担当したが負担だった。お互いに負担がないように連携していきたい。 ・学校運営協議会の活動が活発になってきているが、保護者の認識が十分でないことが課題である。PTA と連携しながら、学校運営協議会から情報発信していきたい。
山西小学校	・学校地域共同活動推進員として学習支援を主に担当。 ・活動は、運動会後の6月から開始。まずは、6月に槐先生による昆虫教室開催。夏休み期間中、先生の日直の日にゆっくり話し合う時間をもつようにした。その後の主だった活動は次の通り。 ・葛川の探検実施。普段葛川に入って生き物を観察する機会はないので、いい機会だった。 ・ミシンボランティアの実施。先生の負担感が減った。 ・宮司のガイド付きで、川勾神社探検実施。 ・りんご園で話を聞くことができた。 ・身近にある何気ないものを直接体験したり、新しい視点で学んだりすることで、地域の魅力を再発見するよい機会となり、郷土愛の育成にもつながった。 ・コロナの影響で昔遊び名人、戦争体験の話を実現できなかった。 ・民芸保存会の方から神輿や太鼓を使って教育活動（授業）ができないかという依頼がある。 ・二宮のことを学び、二宮を愛せる子どもになってくれたらと思い活動している。
山西小学校	・R3 の活動を経て、先生たちの思いやアイデアがたくさん出てきた。出てきた意見を整理して実施したい。 ・地域、保護者、学校等みんなでつくる山西小にしていきたい。
④ 二宮中学校	
二宮中学校	・中学生のニーズに合った活動内容を模索しながら活動してきた。そのうちの 하나가 寺子屋。地区の老人の憩いの家を借りて実施。先生OBにもボランティアを依頼。参加する生徒は少数だったが、活動を継続していきたい。それ以外は、コロナ禍で予定通りには実施できないことも多かった。 ・地域のボランティアも加わって、校内各所の修繕を実施。木製のベンチ、トイレ、テニスコートのネット等。来年度も学校運営協議会が対応できるものは修繕したい。 ・8月に生徒主体の夏祭りを計画したが、コロナで実施できず、秋祭りとして実施。参加した生徒たちの満足度は大きかった。それがうれしかった。来年度も何らかのイベントを実施したい。 ・学校評価アンケートでは、学校教育目標である「主・人・公」というフレーズは生徒

	に十分浸透・定着していないことが課題としてあげられたが、「主・人・公」に込められた願いは姿として見られた。二宮中学校生徒の姿は誇れるものがある。 ・子どもたちのために何ができるか、職員や委員等の人が入れ替わってもいかに継続していけるかが課題。
二宮中学校	・寺子屋は、参加者は限られている。しかし、二宮高校の生徒が先生役として参加した時の参加者は多かった。 ・引き取り訓練の際に安全部会に協力していただいたことは、職員も大変感謝していた。 ・イルミネーションは子どもたちからの評価が高かった。 ・学校教育目標である「主・人・公」というフレーズは生徒に十分浸透・定着していなかったが、主人公に込められた願いは姿として見られた。 ・課題点は、学校と地域のすり合わせが大事になってくる。地域主催の行事を学校でやろうと計画すると、教職員は「ねばならない」意識にどうしてもなってしまう。 学校と行政と地域がいかに共通理解して活動できるかがポイント。
⑤ 二宮西中学校	
二宮西中学校	・コロナ禍で活動を展開していくことが難しかった。小学校とは異なり、放課後子ども教室のニーズもおそらくないだろう。 ・西中サポーターとして、花づくり、体育祭前のグラウンド清掃等を計画したが、コロナ禍で実施できなかった。 ・コーディネーターとして全家庭を対象に今後の活動内容や協力できそうなこと等についてアンケートを実施。回収率がとても低く、回数は 12 だった。中には、放課後に英語の学習支援をしてもいいよという人もいたが…。どんな活動を行うにせよ、参加する子は特定の子で、少数になってしまう。なぜ少ないのか。自分の子どもが参加すると地域の活動等に代表として選出されてしまう恐れが意識としてあるのではないかな。 ・地域との連携は大きな課題。 ・地域でこれまで受け継がれてきたお祭りや神輿等の文化が薄れてきている。次年度、西中の校庭を利用して、西中の地域の夏祭りを実現したいと考えている。地域と生徒がつながるよい機会にしたい。 ・コロナ禍でやむを得ずオンライン授業という形になったが、生徒たちにとってはいい刺激になった。普段よりも真剣に前向きに取り組んでいる姿も見られた。仮にコロナが収束しても、今後に備えて、オンライン授業は継続的に実施してもよいのではないかな。
二宮西中学校	・コロナ禍の中、今できることをやっていくしかない。1 年生は NA（二宮アドベンチャー）を実施し、地域の防災を調べた。 ・R5 に向けて各 PTA の選出方法、人数等を今後検討していく。 ・1 月 29 日（土）町主催の防災講演会の内容がとてもよかったので、西中でも呼ぶことに。防災教育を通して生徒と地域とのつながりをもたせていきたい。
6 情報交換	
町	・3 年前の CS 立ち上げ当初は、誰もがどう進めたらよいかわからない状態だった。 ・現在は、代表者会や各部会の活動が当たり前のように行われている。また、学校のグラウンドデザインについて話し合う機会があるなど、CS 本来のあるべき姿として機能している。地域と学校の距離が縮まった。 ・二宮小の PTA 広報誌に学校運営協議会の活動内容等について紹介されていた。コミュニティ・スクールの存在を保護者に周知するより取り組みである。

二宮西中学校	R5 年度から PTA 役員の選出方法について、従来は学校内ポイント制だったが、今後は、地区役員、消防団、青少年指導員など学校外の役員もポイント付与したいと考えている。そうすることで、地域参画を促したい。保護者も地域を支える一員であることへの意識を高めたい。
二宮中学校	PTA は任意加入であり、最近では PTA に入らない人も増えている。既存の制度が崩れている。部活動も R5 から段階的に地域移行となる。当たり前のように教員が部活動を指導していたことが当たり前でなくなる。校内だけでなく、地域を含めた大きな枠で考える必要がある。
二宮中学校	・PTA 同様、地区も役員選出に苦慮している。互いに顔見知りだとお願いしやすいが、コロナが影響で中学生保護者と顔見知りになれなかったのは残念だった。今後、地区でも行事等を通じてつながりを深めていきたい。
二宮小学校	・町内会・子ども会育成会・学校と地域が連動できる仕組みができないか。朝の見守りの際に特に連携の必要性を感じる。
一色小学校	・PTA 活動と CS 活動の垣根がなくなることはいい傾向。 ・地域と学校でどういう学校にしたいかを話し合える場があることは大事。 ・学校だけでなく、地域にも子どもの居場所があることは大事 ・互いに何をやっているか知ることは大事。そのためには、情報発信が重要。 ・CS は二宮の教育の特色になっている。ぜひ広報誌に掲載して情報発信してほしい。 活動内容を知ることで、協力したい人は出てくるだろう。
二宮小学校	・SOS の家の存在がもっとクローズアップされるとよい。 ・PTA だけでなく町の課題として考えるとよい。学校運営協議会でもフォローしたい。
二宮西中学校	・発信と受信が大事。そして継続が大事。 ・年間を通じて学校園を地域の人に管理してもらう一色小の事例はすごくいいアイデア。山西小の葛川の探検活動も体験を通じた深い学びや郷土愛の育成にもつながる好事例。鶴見川の事例にも似ていて大変参考になった。
山西小学校	・コミュニティ・スクールは地域の子どものためのよりよい成長や学びのために設置されたものである。地域には魅力的な宝がたくさんあり、地域の中で子どもたちは多くを学び、地域への愛着をもってくれることを期待している。一方で、学校の先生がそこに向かい合う時間、手立ては限られている。地域学校協働活動推進員が先生方とじっくり話し合える時間を選んで対応してくれている。コーディネーターの存在は大きい。地域とともに活動することで子どもたちが学びを得た経験は、先生にとっても成功体験であり、大きな喜びになっていた。 ・平塚の学校では、保護者が子どもと学校が協力して通学路点検をした。今年度山西小でも実施しようとしたがコロナでできなかった。来年度は実施したい。 ・今後も学校と地域とのつながりが大事。
一色小学校	・一色小のコミュニティ・スクール推進のために心がけていたこと。 「できる・できない」ではなく「どうやったらできるかをみんなで考えること」が大事。それに尽きる。
二宮中学校	地域と学校（校長）のつながりを深めることは大事。ただし、校長が地域とのつながりを深めるためには一定の期間が必要であり、それが悩みでもあった。
町	・コミュニティ・スクールさらに推進したい。 ・エアコン清掃は予算化される見込み。

7 その他	
町	①小中一貫教育を導入する社会的背景について。 ・コロナ、情報化等生活環境の変化により、人と人とのふれあいが減少し、おもいやり の心を育む場や機会が少なくなっている。 ・人と人がふれあえる場や機会は重要。地域とのふれあい、異学年交流等様々なふれあ いの機会を創出していく必要がある。子どもたちと地域を結びつけるコミュニティ・ス クールは小中一貫教育には欠かせないものであり、二つを一枚岩として考えている。 ②20年後のビジョン ・1つの場所にみんなが集える学校（施設一体型小中一貫教育校1校）をつくりたい。 当初は40年、50年先になると思っていたが、人口の将来推計によると、20年後には実 現できそうな見通しが立ってきた。 ③今後20年間のビジョン ・R5より2つの中学校グループで分離型小中一貫教育校を始めていく。 ・まずは、小中一貫教育目標を定めた。「認め合い、高め合う、二宮の子」 ・身に付けるべき資質能力を育成するためには、9年間を見通した共通性と一貫性をも って系統的な指導、また、受容的かつ共感的な学級集団づくりをベースとした誰一人取 り残されない教育を行うことが重要。先行して取り組んでいる山西小学校では、成果が 出ていて、進学先の二宮西中でも変化が見られる。町内の教員が一枚岩となって、9年 間の成長を支えていく ・9年間を見通したカリキュラム作成を通じて、つまづきやすい学習内容を丁寧かつ重 点的に指導できるようになることも小中一貫教育の導入で期待できること。 ・特に二宮は、「資質能力の育成」「英語教育の充実」「郷土愛の育成」の三本の柱を大切 にしている。 ④中学選択制 ・一色小で緑が丘地区と一色地区に住んでいる児童は、R6年度から進学先を選択できる ようにする。（令和3年度の小学校4年生から対象） ・令和4年度の夏には説明会を実施する予定。今後、あらゆる機会以小中一貫教育につ いて周知していきたい。
一色小学校	・小中一貫教育について一番知りたい人は、子どもと保護者である。その方にどこまで 伝わっているのか。 ・学校を一緒につくっていく仲間として今後も情報を共有して行ってほしい。